

土質工学会編
最上・渡辺著
土質工学会編

同 上

昭和 29 年に従来の日本土質基礎工学会委員会が発展的に改組されて土質工学会が誕生した。引続き刊行されてきた機関誌『土と基礎』はすでに通巻 24 号に至り、隔月刊として会員あて送付され、一部市販にもなっているが、会はその他にも逐次単行本の型式で出版も行っている。比較的最近の出版を選んで掲げたのが表題の 4 点である。

土質工学会用語集

英和英対照表、土質関係記号説明、同種用語対照表から成りその主要部は英和英対照であり 1200 語前後が収められている。用語集だから、術語の説明は多いが、土質工学における土質関係よりはるかに広範囲から採択されている。同種用語対照表は、とかく翻訳などの際に混同されやすい用語を項目ごとに配列し、使用しやすくしてある。用語集として英、和のみに限定したのはいささか頼りない感なきにしもあらずだが、そうかといつて欧州各国語を

土質工学会用語集
平易なる土質工学
土質試験法解説（第 1 集）

地盤支持力を中心とした

土 質 工 学

併記するだけの余裕もない。その必要がある際は 6 カ国語におよんだ国際土質基礎工学会議刊行の用語集を利用することになる。

A 5 判 60 ページ、上製 定価 150 円、昭.32.7.31 発行。

平易なる土質工学

ただちに実用上応用できる範囲の土質工学とでもいえそうなのがこの著書である。『土と基礎』誌に連載されたものを 1 冊にまとめ、演習問題とその解答に約半分のページ数（80 ページ）をさいた。内容もよく『平易さ』を失わないよう計られ、かつ実現しているが、土質工学小史、最近の研究といった章では、現在置かれている土質工学の立場、将来への方向を示唆する意味で『深み』もある。土の分類、水と土の性質との関連性、透水、圧密、強度、斜面の安定、土圧、載荷面の安定性および応力の伝播がそのおもな内容である。

B 6 判 200 ページ、並製、会員頒布実費 150 円、昭.32.9.30 発行。

技報堂刊
土質工学会刊
土質工学会刊

同 上

土質試験法解説（第 1 集）

土の粒度および物理試験のための試料調製方法（JIS A 1201）にはじまり、土質試験に関連する 15 の JIS の解説書である。道路、アースダム等を対象とするものも含まれ、解説文そのものは各 JIS ごとに 1 人ずつの担当者が執筆している。

B 6 判 200 ページ、並製、会員頒布実費 150 円、昭.32.11.10 改訂 3 版発行。

地盤支持力を中心とした土質工学

昭和 32 年に行つた講習会のテキスト、その項目と講師かつ執筆者の氏名を列記すると、土の性質：岸上、野外調査：大平、地盤支持力：三木、構造物基礎：山門、構造物の基礎に関する最近の問題点：三木、となる。講習会を目的としているとはいえ騰写印刷で部数が局限されているのは惜しまれる。

B 5 判 222 ページ（騰写印刷）、並製、非売品、昭.32.12.30 発行。

会 員 現 在 数 (昭.33.1.31 現在)

名誉員	賛助員	特 1 級 A	B	C	特 2 級	特 3 級	正員	准員	学生員	合計	増加
22	30	15	11	66	110	92	7 304	5 139	1 248	14 037	68

昭和 33 年 1 月分入退会報告 (昭.33.1.1~1.31)

1. 入 会 74 名 (正 17, 准 26, 学生 31)
2. 退 会 6 名 (正 5, 准 1)
3. 転 格 13 名 (准より正へ 8, 学生より准へ 1, 正より准へ 2, 特 2 より特 1A へ 1, 特 2 より特 1C へ 1)

准員 楠本唯雄君 (運輸省第 3 港建和歌山港工事事務所) は 1 月 26 日南海丸の事故により急逝されました。享年 46 才、本会はここに紙上より深く哀悼の意を表します。

昭和 33 年 2 月 10 日印刷
印刷者 大沼正吉
編集兼発行者 中川一美
定 価 100 円

昭和 33 年 2 月 15 日発行
印刷所 株式会社 技報堂
発行所 社団法人 土木学会
振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 43 卷 第 2 号
東京都港区赤坂溜池 5 番地
東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
電話 (35) 5130・5138・5139 番